

森と緑の会だより 2010春号

森のようちえん親子体験。自然の中で思いっきり活動しました。

高知県に「森のようちえん」を広げたい。そんな想いから平成22年2月7日(日)、「アジロ山の自然と環境を守る会」にご協力いただき、親子体験を行いました。



わー見て！落ち葉がいっぱい！ほら！落ち葉の雨を降らすよ…とはしゃぐ子ども。

森のようちえん／アジロ山

ゴミの不法投棄に悩む森を憩いの森に！と活動をしている「アジロ山の自然と環境を守る会」が協力



さあ、森へ！／斜面が急だったら手をつこうてもちっともかまん(気づかぬ内に手は土や落ち葉の感触・鼻は森のにおいをキャッチ)／あっあ～(森の遊具・ターザンロープ)／ゆっくりでかまん、自分で下りよう(親は見守るコトが大切)



お屋はもってきたお弁当と、現地でつくった焼き芋と豚汁で満腹に。午後は、ついさき拾った木の実でクラフト。冬は落ちていた木の実も秋よりも古くて少なかったね…。冬を感じるメニュー。
森のようちえん - 森そのものが園庭や遊び道具にあたる - 午前中は森での体験。大人の役目は子どもを見守り、

安全を確保し、ともに感動すること。子ども達が自力で山を登る。森の遊具やツリーハウスで遊ぶ。いろいろな森での発見や危険やおもしろさを体験する。知らない間に五感が刺激されています。冬の森の木漏れ日を感じながらの読み聞かせでは何をイメージしていたのかな…。※ 高知県の森林環境税を活用した「平成21年度体験活動補助事業」の助成を受けています。

「緑の募金」ありがとうございました。皆様のお気持ち、心から嬉しく、大切に活用します。

12月、「ダイドー・タケナカビバレッジ株式会社」から30万円の「緑の募金」をご寄附いただきました。さらに、平成21年度緑の募金公募事業で助成した「若草幼稚園」と「南国市立鳶ヶ池中学校生徒会」の2団体からも、緑の募金で活動させていただけたお礼に、と募金に取り組んでくれました。集まったお金は「緑の募金」に寄附してくださいました。(3頁に関連記事を掲載)



▲代表取締役竹中様(左)から理事長へ寄附



▲若草幼稚園児が直接募金箱へ。



▲鳶ヶ池中学校では全校集会にて生徒会から寄附



森の名手・名人【森づくり部門】苗木生産 石川 彰宏さん

香美市香北町に生まれ、祖父の代から家業である林業用苗木生産及び森林造成の現場に深く関わり、特に苗木生産では他に先駆けて合理化、省力化に取り組み、積極的に機械化を推進するとともに、研究機関等と連携して病虫害予防及び除草・肥培管理の効率向上と適正化に創意工夫をこなし、他のモデル的存在としての位置を占めている。全国苗畑品評会では林野庁長官賞、農林水産大臣賞を受賞。

森を守り、森を育て、
その恵みを活かす

森の名手・名人

～もりのくに・にっぽん運動～

森の名手・名人【加工部門】炭焼き 杉本 正一郎さん

室戸市佐喜浜町生まれ。備長炭づくりがもともと盛んな地区で父親も炭焼きだった。会社勤めを経て、平成元年から親類に手ほどきを受けながら本格的に備長炭作りを修行し、平成3年から自主炭窯を持ち独立。生業として備長炭を焼しながら、室戸炭焼き名人俱楽部代表や、高知県では唯一の土佐備長炭資料館である「炭の家ほのぼの」を私費で建てる等、製炭だけでなく備長炭の普及にも意欲的に努めている。

(社)国土緑化推進機構では、平成14年度から「もりのくに・にっぽん」運動として、森に関わる生業のうち、優れた技を極め、他の技術・技能等の模範となっている達人を「森の名手・名人」として、毎年全国で100名程度を選定しており、今年は当県から2名の方が選ばされました。



プロカメラマンといっしょに森で写真絵本をつくろう！

平成21年12月13日(日)、高知県立森林総合センター(香美市土佐山田町)の情報交流館や里山で「森の写真絵本づくり」を開催しました。講師は、北海道のプロカメラマン小寺卓矢さん。子ども達に写真をとおして自然を見つめ、深く親しんでほしいと全国で絵本づくりのセミナーを行っています。

大切なのは自分の心が動く=感動したものを撮影すること。デジカメの効果的な使い方の基本を学び、いざ、森へ。写真を撮るので、ふだんよりじっくりと森を観察することになり、これまでにない発見や表現で枚数を重ねていきました。その中の5枚だけで絵本を作ります。保護者も参加していたの

で、いっしょに悩みながら選び、色画用紙に貼ってストーリーをつけていきます。保護者が我が子の表現の豊かさを発見して驚いているのが印象的でした。※ この行事は、子ども達に森に深く親しんでもらうことを目的に「緑の募金」を活用して実施しました。



緑の募金、「使うことから「集める」ことへ

若草幼稚園からバザーで自分達が販売した売上金から募金をしたいと連絡をいただき、平成21年12月16日(水)、同園を訪れました。ホールで一列になって園児一人一人が募金箱に募金をしてくれました。さらに、みんなで元気いっぱいの大合唱。クリスマス間近で、素敵なクリスマスプレゼントをいただいたかのよう、とても心があたたかくなりました。



左：理事長から一人ひとりの胸に緑の羽根をつけた。
右：公募事業は「すくすくの森整備事業」。保護者が中心となって森を整備した。

2月1日(月)、今度は鳶ヶ池中学校生徒会から。学校をあげて緑の募金に取り組んだとの連絡をいただき、中学校を訪れました。川合理事長が受け取ると、あやうく箱を落としそうなほどみんなの気持ちがずっしりとつまっていました。どちらも、公募事業に申請して活動を行っており、そのお返しをしたいとの気持ちで取り組んでくれたとのことです。



左：公募事業は「鳶ヶ池中学校学校林を活用した森林環境教育」。1～3年生がそれぞれ森林環境教育を実施しました。
右：寄附の際によびかけたチラシと募金のずっしりとつまつた箱。

両方に出席した川合理事長、横山事務局長ともどもいわく、涙が出るほどうれしかったとのこと。みなさん、本当にありがとうございました。

土佐町小学校「学校環境緑化モデル事業」完了

土佐町では、平成21年度から町内の小学校が1校に統合しました。前身の森小学校が新しい校舎となりましたが、中庭の木が生い茂り、陰になって湿っぽく感じられていました。

そこで、「ローソン緑の募金」事業を活用し、町の予算もあわせて本格的な整備を実施しました。うっそうとした木々はすっきりと整備され、木のベンチも新しく設置され、子ども達が憩える空間が誕生しました。2月5日(金)、関係者と来賓が出席し、6年生が代表で挨拶し、完成式を行いました。



上：来賓を前に代表生徒が挨拶
下：式典後、記念植樹を終えて、全員で記念撮影

間伐材を使ったミニ門松づくり

平成21年12月26日(日)、サニーマート高岡店(土佐市)で門松づくりを行いました。ミニとはいって、松竹梅などを、ナタで割った間伐材を土台に飾りつける本格的な門松。参加者も新しい年を迎えるにあたり、参加者のほとんどが、作成中に竹の切り口や間伐材の並べ方にこだわり始め、じっくりと2時間近くかけて完成させました。



■「木のおもちゃ」でたのしくあそんだよ！

野市東保育所への3ヶ月の貸出し期間を終え、引き取りに行くと、みんなで楽しく遊んだよ、かしてくれてありがとう！とたくさんの写真。園児の皆さんのが集まって渡してくれました。仲良く遊んだ様子が伝わってきてとてもうれしかったです。



TOPIC

■仁淀川上流・越知町黒森山植樹第2弾

3月7日(日)、越知町の黒森山で仁淀川漁業協同組合主催、当会共催で植樹を実施します。今回の苗木等の経費は、「高知銀行」から環境緑化定期預金の0.01%分として、8月に寄附いただいた「緑の募金」を活用します。

日常の暮らしの中から森づくり

■ NCB緑の募金カード

環境貢献型カード。これでふつうにお買い物するだけで緑に。入会金・年会費無料。

■ ほっと一息！森づくり！ ～「緑の募金」自動販売機～

同じ飲むなら「緑の募金」自動販売機。対象販売機には、緑の募金の標示がされています。協力企業は下記の3社です。

- ・ダイドードリンコ
- ・四国キヤンティーン(コカ・コーラ系列)
- ・岸田サービス(サントリー・アサヒ・ボッカ・大穂製薬・ネスレ)

■ ハーティカードで森づくり！

たまつたポイントで気軽にご寄附。サニーマート全店舗設置のハーティポイント交換機で、「緑の募金」ボタンをチョイス！

元気をとりもどして！為松公園の「桜」の木々

『為松公園』は、四万十市中心部の高台に位置し、春にはソメイヨシノ約800本が咲き誇る「桜の名所」で、日本の歴史公園百選にも選ばれています。しかし、50年の樹齢を超す桜は元気がなくなり、テングス病が入り、幹には腐りが目立つようになってきました。

そこで、「緑サポーター」のメンバーも多く入っている「幡多緑と水の会」が主催し、市にもよびかけ、2月第2・3週の週末に、のべ4日をかけて桜の治療を行いました。



▲腐りの入った幹の腐りを丁寧に取り除いて治療をする

※ この治療作業は、当会の「緑と水の森林基金事業」として経費を助成しています。

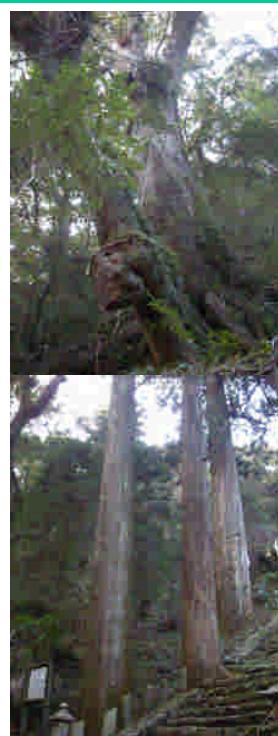
※ この公園の一画には、山内一豊の弟、康豊の居城であった中村城跡に立つ城の形をした「四万十市立郷土資料館」があり、今年は「龍馬伝」イヤー。龍馬時代の展示もあります。

巨樹・古木No.12 神峯神社の「大樟」「大杉」(安芸郡安田町)

こうのみね

神峯神社は四国靈場27番札所「神峰寺」に隣接した神社で、その境内には巨大な大樟と大杉がある。

大樟(写真上)は、高知県の天然記念物(昭和30年8月19日)に指定され、樹齢推定900年、胸高直径360cm、樹高15m。この樹の根元には「樟神社」が安置されており、昔から神經痛に効験ありとい伝えられている。この樹は明治7年の土砂崩壊のため、6mほど埋没していたものを昭和28年に3m位掘り出し、現在に至っている。



大杉(写真下の右端の木)は、樹齢推定300年、胸高276cm、樹高45m。品種的形態より判断すれば、ヤナセスギ系統の天然木と見られ、その中でも最大級の部類に入る巨木である。

森と緑の会の前身、「高知県緑化推進委員会」の時に県内各地の巨樹に看板が立てられ、15年近く経った今、再びそれらの木に会いに行って特集しています。



・緑の募金に関するお問い合わせ
・緑の募金事業に関するお問い合わせ

当会は特定公益増進法人に該当します

[緑の募金]に協力いただきますと特定寄附金として税制上の優遇措置が受けられます。

公益社団法人 高知県森と緑の会
〒780-0870

高知市本町5丁目1番50号 中沢ビル4F
TEL:088-855-3905 FAX:088-855-3906
E-mail info@moritomidori.com
ホームページ http://www.moritomidori.com/